



令和5年度
学校だより
11月号

自ら輝くときわの子
～一人ひとりが輝く存在に～
互いに学び合い
自分らしさを発揮する子の
育成を目指します

令和5年10月31日
横浜市立常盤台小学校
TEL 331-4808
FAX 331-5429

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tokiwadai/>

しんじつ し こころ
真実を知ろうとする心

こうちょう まつもと みちたか
校長 松本 理孝

10月21日(土)の地域公開授業では、保護者の皆様をはじめ多くの地域の方々にも、来校いただき、本校の教育活動の様子をご覧いただき、本当にありがとうございます。当日は、1～3校時でしたので、それぞれの学級で特色ある授業が公開されていたと思います。そして、何よりも子どもたちは、多くの方々に見ていただいたことに喜びを感じていました。今後とも、本校の教育活動にご理解ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

最近、夜、空を眺めていると月とその近くに輝く星が1つ見ることができます。調べてみると、それは木星で、しばらく、今のような観察しやすい状態が続くそうです。ご存じのとおり、木星も太陽の光を受けて輝いて見える惑星ですが、この時期の木星は、月の明るさに負けず光り輝いているので、月と一緒に見ることができることがニュースでも取り上げられているようです。

そんな木星の観察で有名な人物と言えば、ガリレオ・ガリレイです。彼は、イタリア人で天文学の父とも呼ばれています。17世紀当時、できたばかりの望遠鏡を使って、月や金星、木星など数多くの星を観察し、1610年に木星にある4つの月(衛星)を発見しました。また、それらの観察から研究を深め、「地球は、太陽の周りを回っている」という地動説を広め、科学を発展させてきた人物です。「それでも地球は動いている」という言葉は有名で、様々なエピソードを知っている方も多いかと思います。そんな彼は、著書の中で、「他の人の話を一方的に信じてしまって、なぜ君は自分で観察をしなかったのですか？なぜ自分の目の目で見なかったのですか？」という話をしています。自分の目でものを見て、自分の頭で考えることが一番大切であることを伝えているのだともいます。どんな立派な望遠鏡があっても、真実を知ろうとする心がなかったら、望遠鏡から見えてくる真実に気付くことができないことを言いたかったのではないのでしょうか。

先日の2年生の遠足で、江ノ島に広がる海を見て「地球が丸いなんて信じられない。」とつぶやいた子がいました。その言葉をきっかけに「そうだよね。」「丸くないよね。」「何だろう。」「とつぶやきが聞こえてきました。また、「何で、落ちこちないんだろう。」という子もいました。何気ない風景を、常識にとらわれず、科学的に見ていくその見方のすばらしさ。そして、1つのつぶやきから思いが広がっていく子どもたち。子どもたちには、真実を知ろうとする心が確実にあります。こういった大切な心を「当たり前じゃないの。」で済ますことなく、大切に、どんどん育てていくことも学校の大切な役割であると思いました。また、こういった話ができる子どもたちをとてもうれしく思いました。